

令和4年度事業報告

障害者支援施設 四ツ葉園

はじめに

令和4年8月、12月と四ツ葉園において新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した。特に12月のクラスターは男性ユニットでの拡大となり、障害の特性、重度さから多くの職員も感染する事態となった。大変な状況ではあったが、感染症対策の中で利用者自身の底力に気づき、また個別支援の在り方について学ぶことも多く、以後の支援に活かされている。

クラスターという非日常から、いつもの生活を取り戻すための業務継続計画に基づく検討も日々重ねられ対応力を問われたが、法人一致団結の取り組みと利用者のエンパワメントによりwithコロナを明るく前向きに捉えていける自信にもつながっている。

(1) 利用状況

この3年間は満床状態が続いている。このうち女子については、1名の方が介護施設に移行され、地域より1名入所。男性については1名の方が身体障害者施設に移行され、1名の方は病气入院中に死去された。(3/31に死去のため3月末日の統計では利用となっている)

こうしたことから、施設収入は安定しているものの、新規入所の希望については、十分には答えられない状態となっている。

< 参考 最近5年間の利用状況 >

利用者数

3月末日

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
男	51名	51名	53名	54名	53名
女	25名	26名	27名	28名	28名
計	76名	77名	80名	82名	81名

平均年齢

3月末日

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
男	41.4歳	41.5歳	42.6歳	42.9歳	44.3歳
女	53.0歳	54.3歳	54.6歳	50.2歳	50.3歳
全体	45.3歳	45.9歳	46.7歳	45.4歳	46.4歳

平均障害支援区分

3月末日

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
男	4.76	4.80	4.81	5.00	5.06
女	4.33	4.12	4.30	4.52	4.57
全体	4.52	4.55	4.64	4.71	4.81

短期入所支援（定員 6 名） （前年比）

	利用者数	利用延べ日数
短期入所	15 名（3 名増）	345 日（277 日増）
日中一時支援	4 名（増減なし）	13 日（3 日減）

（2）利用者支援について

令和 4 年度は新型コロナウイルスの抗原検査が事業所で行えることになり、利用者の帰省やボランティア等の受け入れは計画的に行えた。保護者や地域の参加はないものの季節の行事も概ね復活した。また、個人や少人数での外出は選択の幅が広がり手厚い支援が行えた。

令和 4 年度の主な行事は次のとおりである。

令和 4 年度新規取り組み

- ・ 選択社会見学 好みの外出先を選んで参加

月	5	6	7	8	9	10	11	2
外出内容	立山町 いちご狩り	立山町 ピザづくり	富山市 買い物	黒部市 牧場	富山市 防災館	滑川市 バーベキュー	富山市 温泉	射水市 道の駅

- ・ 木曜喫茶

毎週木曜午後は喫茶コーナーを開始。第 3 木曜日には、上市町食生活改善推進員によるボランティアを受け入れ、手作りデザートと本格コーヒーが提供される「クローバーカフェ」が開店される。

- ・ 靴の園内販売

シューフィッターが来園し一人ひとりの足を計測してもらい、本人に適した靴を購入。今後も定期的に状態確認が継続される予定。

- ・ 障害者アート支援団体「cotae ネットワーク」に参加

勝興寺に設置されたカプセルトイ絵馬土台を請け負い出荷。

令和 4 年度の主要行事

月	行 事
4	お花見 健康診断
5	夜間想定避難訓練
6	歯科検診
7	歯科検診 歯磨き教室
8	七夕の会 夏まつり 新型コロナワクチン接種 4 回目
9	交通安全教室
10	園祭 健康診断 インフルエンザ予防接種
11	災害時想定招集訓練 インフルエンザ予防接種
12	期末の集い 新型コロナワクチン接種 5 回目
1	新年を祝う会
2	節分会 夜間想定避難訓練
3	ひな祭りの会

(3)生活環境の整備について

事故・ひやりはっと報告について、令和3年度より12件の増加。特に服薬関係の事故・ひやりはっと件数が多く、マニュアルの読み合わせや、服薬支援方法の検討を重ねてきた。服薬事故ゼロを令和5年度の重点目標としている。

(4)人権の擁護について

身体拘束廃止・虐待防止委員会を年3回実施。また、意思決定支援など各種外部研修での復命報告を通して、職員の意識の向上を目指した。

(5)職員の資質向上

7月、富山県歯科保健医療総合センターより、歯科衛生士による歯磨き支援の講習を受け、口腔内の衛生保持について学んだ。

9月、富山県民間社会福祉施設等育成事業による研修会「コロナに負けない、レクリエーションで元気アップ」を開催。

(6)非常災害対策等について

夜間想定避難訓練、災害時想定避難訓練を実施し、上市消防署より講評いただく。

(7)新型コロナウイルス感染症感染防止対策について

3月「新川会感染対策委員会」にて、令和4年度の検証と、今後の方针对策について検討した。

クラスター対応についての検証を重ね「北陸地区知的障害者関係職員研究大会」にて発表した。また、看護師は専門研修にも参加し感染症への知識と技術を深めた。

(8)実習生、ボランティアの受入れについて

実習生の受け入れは、コロナ禍前の状況にほぼ戻った。当園で実習した学生のうち1名が、当法人の令和5年度新規職員として採用された。

職員1名が社会福祉士実習指導者研修を修了し、社会福祉士実習を4名受け入れた。

(9)地域との関係づくりについて

9月、医療福祉専門学校生とZoomにて利用者も含めた交流があった。

家政班制作の交通安全マスコットの寄贈に対して「第59回富山県交通安全県民大会・交通安全功労団体感謝状」をいただく。

はじめに

地域で暮らしている障害者（児）と、その暮らしを支えている家族に対し、相談を通して生活に必要な情報の提供と、それに伴う生活向上のための支援を行った。

また、精神的負担感を感じやすい業務であるため、引き続き相談室内でのケースの共有や現場教育を行い、バーンアウトを防ぐとともに、相談支援技術における専門スキルの向上を図っていきたい。

(1) 計画相談

計画相談支援	451 件（成人 302 件	児童 149 件）	前年度 529 件
新規	40 件（成人 19 件	児童 21 件）	
モニタリング	509 件（成人 425 件	児童 84 件）	前年度 317 件

前年度は、コロナ禍で障害支援区分更新が1年延長されたことによる更新件数は増えていたが、令和4年度は通常に戻っている。モニタリング件数は、8月から5人体制となったため、目標を400件としていたところ、大きく伸ばすことができた。新規の利用者においては、相談支援事業所が増えたことで成人については減ったものの、障害児相談支援の事業所は限られるため児童については例年並みとなった。

(2) 一般相談

家庭での粗暴行為がエスカレートしたケース、保護者の入院や認知症の発症により家庭状況が変化したケース等は、緊急的に介入したが、サービスが定着し生活が安定するまで時間がかかった。特に今までサービスを利用したことがない人の場合、サービス利用に慣れるまで丁寧な支援が必要であった。

引きこもりのケースには、障害特性の理解と本人との関係作りから始まるため、時間がかかった。

介護保険サービスへスムーズに移行できるよう、担当者会議で本人の情報等を引継ぎし連携した。

障害者虐待の案件については、関係機関と連携し本人の安全確保を優先し、その後の安心した暮らしに向けての支援を行った。

(3) 障害児相談

ミュージック・ケアを保育所入所前の子育てサークル等で7件実施予定としていたが、新型コロナウイルス感染症の流行時期と重なった2件は中止となった。

障害児支援サークル「星の子サークル」（立山町）の活動のうち、写生会と書道教室のみ支援を実施した。

(4) 地域生活支援拠点

コーディネーター業務

相談対応、緊急的な対応が必要となる者の支援（4件）、地域生活支援拠点拡充に関する協議を実施した。

実態把握訪問 1件

緊急受入 0件

(5) その他

権利擁護

成年後見制度の利用に係る相談や申立に係る諸手続きのサポート、日常生活自立支援事業の利用のための情報提供やサポートを行った。ほか、障害年金、療育手帳等各種申請や手続きの相談を受け助言や支援を行った。

地域ネットワークの構築

「滑川・中新川地域障害者自立支援協議会」の各部会活動において、それぞれテーマに応じて地域課題の抽出、共有をした。そのなかで、地域で暮らしている障害者とその家族の支援の充実のため、行政、関係機関及びサービス事業所とネットワークの構築に努めた。コロナ禍で地域の障害者の交流活動やイベントは実施できなかった。

富山県自立支援協議会相談部会「研修ワーキンググループ」への参加協力

相談支援体制の整備と人材育成のための相談支援従事者研修において、ワーキンググループの構成員として参加し、相談支援に携わる者のネットワークの構築に努めた。

専門的人材の配置のため、主任相談支援専門員研修や精神障害者支援人材育成研修を受講した。

新川会 共同生活支援室

(1) 利用状況

令和4年度に男性1名が利用開始、女性1名が地域移行をし、男性20名、女性8名が利用している。20代から80代までの幅広い年齢の方が在籍している。日中活動先は一般企業(1名)、就労継続支援A型(1名)・B型(21名)、生活介護(1名)富山型デイサービス(4名)となっている。

< 参考 最近5年間の利用状況 >

利用者数

3月末日

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
男	18名	18名	18名	18名	20名
女	9名	9名	9名	9名	8名
計	27名	27名	27名	27名	28名

(まえざわ男性6/7、かわはらだ男性7/7、つつみだに女性8/9、第2つつみだに男性7/7)

(2) 利用者支援について

令和2年度から新型コロナウイルス感染症対策として、各種イベント等への参加を自粛してきた。そのような中でも帰省や各ホームでの新年会等を行い利用者に楽しんでもらえるようにした。しかし年未年始に第8波の流行が来たことで初めて年未年始帰省を中止した。

新型コロナウイルスについては、適宜情報を発信し「適切に恐れる」ということを何度も伝え続けた。8月第2つつみだにの家7名、かわはらだの家1名、11月まえざわの家1名が感染したが重症化することなく回復している。

(3) 人権の擁護について

個別支援会議や虐待防止委員会にて、一人ひとりの支援の振り返りをし、人権擁護に努めた。

(4) 職員の資質向上

外部研修は、職種に合わせた研修に参加した。また、内部研修では、全体職員会議等で研修報告などを行った。

(5) 避難訓練について

6月は水害を想定しての避難訓練を実施、10月は火災を想定しての避難訓練を実施し、利用者・世話人と共に避難経路などの確認をした。

(6)新型コロナウイルス感染症感染防止対策について

検温(朝、夕)手指消毒、マスク着用、食堂にパーティションの設置等、基本的な感染対策をおこなった。

(7)地域との関係づくりについて

地域との行事はほとんどが中止となったが、五百石地区社会福祉協議会・立山町社会福祉協議会との交流会や、上市町社会福祉協議会障害者スポーツ交流会、赤い羽根共同募金の街頭募金運動に参加した。

障害福祉サービス事業所 雷鳥苑

(1) 利用状況

生活介護事業においては、日中支援型グループホームへ1名、他事業所の就労継続支援B型へ1名、生活介護へ1名、入所施設(四ツ葉園)へ1名と4名が退所となっている。令和4年度末には、新規利用が1名加わり14名が利用している。家族支援や行動面でのサポートが必要な利用者には、相談室との連絡を密にしながら支援している。

就労継続支援B型においては、転居に伴う他事業所の就労継続支援B型へ1名が退所した。在宅から日中活動の場としての新規利用者1名が加わり18名が利用している。生活介護、就労継続支援B型ともに定員に若干の余裕がある状態が続いている。

< 参考 最近5年間の利用状況および平均工賃額 >

1日あたりの平均利用者数

3月末日

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
生活介護	14.3名	14.3名	14.3名	15.2名	13.0名
就労継続	16.5名	15.9名	15.9名	16.8名	16.1名

平均工賃

3月末日

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
就労継続	9,119円	10,473円	9,894円	7,349円	13,877円

* 令和4年度はリサイクル作業と農福連携事業に従事したところ、工賃アップにつながった。

(2) 利用者支援について

一人ひとりにあった自立をめざし、個別支援会議やミーティング等で、利用者の状況把握と情報共有を行い支援してきた。7月、8月に新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、休苑を余儀なくされたが、健康観察や在宅でできる作業の提案等の在宅支援を行った。対外行事においては、中止になるものが多かったが、遠足や季節行事は自治会の意見を取り入れた内容を企画することで、多くの利用者の喜ぶ姿がみられている。

令和4年度の主要行事

月	行 事	実 施 状 況
4	お花見	バスドライブを実施
7	遠足	新湊方面
8	夏祭り会	2度のクラスターにより9月に延期
	立山町赤十字奉仕団交流会	中止
9	ふれあい育成スポーツ大会	中止
	交通安全マスコット配布	利用者、立山町交通安全協会員 前沢中央公園前にて合同配布
10	苑祭（秋のお楽しみ会）	縮小して実施
	社会参加促進事業	中止（絵画作品のみ出品）
11	立山町飲食店組合交流会	中止
12	もちつき	実施
	期末の集い	実施
	下段地区交流会	中止
1	新年を祝う会	実施
2	節分の会	実施
3	ひなまつりの会	実施

（3）生活介護メニュー

受託作業 段ボールの組み立て、ペットボトルのリサイクル作業
 創作的活動 ちぎり絵、アイロンビーズ
 体力づくり トランポリン、散歩、ルームランナー

（4）就労継続支援B型メニュー

受託作業 アスコ株式会社 にんじんの皮むき、ねぎの下処理作業
 ホクデン株式会社 パンフレットの封入作業
 ペットボトルのリサイクル作業

農福連携事業 新田植えに付随する作業

自主製品 手芸品 野菜栽培(たまねぎ・にんにく・唐辛子) 乾燥野菜

請負作業 環境センター 環境センター内の軽作業

アルミ缶のリサイクル

古紙回収 会社からの回収依頼

(5)新型コロナウイルス感染症感染防止対策について

施設内の消毒や基本的な感染症対策（検温、手指消毒、マスク着用）と利用者の健康観察を継続して行った。7月と8月にクラスターが発生し、利用者14名、職員6名が感染した。看護師からのアドバイスを受け、感染が拡大の検証を行い、対策防止に取り組んだ。

(6)実習生の受け入れについて

県内大学からの実習生2名のべ20日間受け入れ、障害者に対する理解を深め、触れ合う機会を提供した。

(7)地域との関係づくりについて

立山町社会福祉法人連絡会のフードドライブ（年2回）への取り組みに輪切り唐辛子やにんにくチップを協力品として提供した。立山町社会参加促進事業では絵画作品を展示、秋の交通安全運動では、マスコットを作成し立山町交通安全協会と合同で交通安全をよびかけた。

(8)人権の擁護について

プライバシーに配慮し、利用者の変化や気づきを大切にしながら一人ひとりへの支援の振り返りを行い人権擁護に努めた。

障害福祉サービス事業所 さつき苑

(1) 利用状況

生活介護では、令和4年度に1名の新規利用があり20名となった。またコロナ感染症を危惧して欠席が続いている利用者もいたが、平均利用者数は16.7人と増加している。

就労継続支援B型では、令和4年度は、体調不良による欠席者はいるが、利用者数は昨年度より増加した。

< 参考 最近5年間の利用状況および平均工賃額 >

1日あたりの平均利用者数

3月末日

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
生活介護	14.7名	14.8名	13.2名	16.3名	16.7名
就労継続	13.7名	13.4名	13.2名	12.9名	13.1名

平均工賃

3月末日

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
就労継続	8,356円	10,720円	10,357円	19,602円	20,731円

(2) 利用者支援について

令和4年度の行事については、感染症対策を実施し、さつき苑祭やもちつきなどレクリエーションを中心とした行事を利用者、職員のみで行った。成人を祝う会では、成人者2名と保護者にも来ていただきお祝いをすることができた。

また、希望者には新型コロナワクチン(4回目)インフルエンザ予防接種を四ツ葉園にて実施した。

令和4年度の主要行事

月	行事	実施状況
4	お花見	実施
6	お楽しみ会食	実施
8	七夕の会	実施
	夏のお楽しみ会	実施
10	秋のお楽しみ会	実施
	インフルエンザ予防接種	四ツ葉園にて
12	もちつき	実施
	期末の集い	実施
1	新年を祝う会 成人式 2名	実施
2	節分の会	実施
3	ひなまつりの会	実施

(3) 生活介護

天気の良い日には町民グラウンドでの歩行を行い、健康に生活リズムを整えられるよう取り組んだ。コロナ禍で体重が増加傾向にあり、保護者からも運動を要望する声が多く聞かれたが、体重減少するまでの効果にはつながらなかった。苑内の活動としては、月1回の音楽療法を実施し、音楽に合わせて身体を動かし楽しむ様子が見られた。また創作活動で作った作品を毎月、玄関に掲示したことで保護者の方にも見てもらえる機会となった。

(4) 就労継続支援B型

藤堂工業からのリテーナ作業の受注量は、令和4年度も増加のままをたどっており、受託作業の収入は増加している。そのため年3回(8、12、3)の賞与を支給した。平均工賃額は、2万円にすることができた。

自主製品では、当帰やラベンダー、よもぎの入浴雑貨の販売数が少なく収入も昨年度より減少した。またさつまいもの加工品づくりに取り組む時間が少なくなり、栽培したさつまいものほとんどはそのまま店頭での販売となった。

(5) 新型コロナウイルス感染症感染防止対策について

朝の検温、手指消毒、マスク着用、苑内及び送迎車の消毒など、基本的な感染対策を行った。保護者と家庭での感染状況を確認することで、苑内への持ち込み、感染拡大を防ぐことができた。

(6) 実習生、ボランティアの受け入れについて

県内の指定校からの実習生を2名のべ20日間受け入れた。行事のボランティア受け入れはできなかった。

(7) 人権擁護について

個別支援会議や虐待防止委員会にて、一人ひとりの支援の振り返りをし、人権擁護に努めた。

(8) 施設整備

10月には送迎で使用している車両(10人乗り)が更新した。
食品加工場に、野菜等の加工品包装のため真空包装機(R5.2)を購入し、製品づくりに取り組んだ。

(9) 職員の資質向上

外部研修では、権利擁護研修(意思決定支援・虐待防止)や強度行動障害(基礎、実践)研修に参加し利用者支援に努めた。内部研修では、全体職員会議等で研修報告を行った。

障害福祉サービス事業所 つつじ苑

(1) 利用状況

利用者定員について生活介護 18 名（現在 18 名）就労継続支援 B 型定員 20 名（現在 17 名）である。

令和 4 年度の新規利用者は 1 名だった。令和 5 年 3 月に富山県立にいかわ総合支援学校を卒業し生活介護サービスを利用となった。

退所者については、他事業所へ移行した方が 1 名（就労継続支援 B 型）、日中支援型グループホームで訪問看護サービスを利用することになった方が 1 名（生活介護）、他 1 名（生活介護）の 3 名だった。

長期欠席や継続して利用ができない方については、家族支援や行動面でのサポートが必要な利用者は、相談室との連絡を密にしながら支援を行った。

< 参考 最近 5 年間の利用状況および平均工賃額 >

1 日あたりの平均利用者数

3 月末日

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
生活介護	9.4 名	9.7 名	11.0 名	10.3 名	11.5 名
就労継続	19.7 名	18.7 名	16.3 名	15.3 名	15.0 名

平均工賃

3 月末日

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
就労継続	4,769 円	4,606 円	5,202 円	5,755 円	5,936 円

(2) 利用者支援について

令和 4 年度においても新型コロナウイルス感染症対策として行事の縮小や各種イベントの形態をかえて行ってきた。新規事業として元 J リーガーによるサッカー教室を 11 月と 2 月の 2 回実施することができた。柔らかいボールを使用しサッカーに親しめるメニューで誰でも参加できる楽しいサッカー教室だった。令和 5 年度にも継続して実施予定である。

地域の読み聞かせサークルにも来苑してもらい絵本の読み聞かせや歌、手品など実施した。

令和4年度の主要行事

月	行事	実施状況
4	お花見	実施
5	遠足	お食事会（代替行事）
6	花しょうぶ祭り	実施
7	市社協ボランティア体験	実施
8	夕涼み会	縮小実施
	エール即売会	中止
9	ふれあい育成スポーツ大会	中止
10	滑川市社会福祉大会出店	中止
11	つつじ苑祭	縮小実施
	サッカー教室	講師を招いて教室開催
	TOMI SHOP 出店	中止
12	障害者週間出店（滑川：エール）	利用者手作り製品販売
	選択外出（エール・メリカ）	選択希望（買物&おやつ）
	もちつき	実施
	期末の集い	実施
1	新年を祝う会	実施
2	節分の会	実施
	サッカー教室	講師を招いて教室開催
3	ひな祭り会	実施

（3）生活介護

日中活動として行田公園や滑川市スポーツ健康の森までの散歩、上市町のあさひの郷公園に行き遊具を使って体を動かした。荒天の場合は、社会福祉センター2階の大会議室を利用してウォーキング、トランポビクス、ボールエクササイズを行った。生産活動として（株）滑川市交通安全協会やサンフーズの広告封入作業を行った。8月と12月に賞与を支給した。

（4）就労継続支援B型

令和4年度はコロナ禍の中で次第に収入は微増だが戻りつつあり、令和4年度の収入は1,767,006円（前年比244,098円増）だった。平均工賃は、令和4年度5,936円（令和3年度5,755円）だった。

作業種目については、滑川市からの地下道清掃も請負（2箇所）（有）重松、第一繊維工業有限会社のタオル伸ばし作業、（有）やまもとの自動車部品箱詰め作業を行ってきた。

令和4年度から本格的に滑川市内の空き家や休耕田の除草を請け負った。合計14件464,000円の収入があった。

（5）人権の擁護について

個別支援会議や虐待防止委員会にて、一人ひとりの支援の振り返りをし、人権擁護に努めた。

（6）職員の資質向上

外部研修は、権利擁護研修（虐待防止）や「利用者の気づきを理解するために～不対応行動へのアプローチと心構え～」に関する研修を受講し支援に対する資質向上を図った。また、内部研修では、全体職員会議や課内会議で、研修報告などを行った。

（7）新型コロナウイルス感染症感染防止対策について

感染対策として検温（朝、昼、帰宅前）手指消毒、マスク着用などの基本的な感染対策をおこなった。

（8）実習生の受入れについて

指定校から社会福祉士や保育士を目指す実習生を3名のべ58日間受け入れた。

（9）生活環境の整備

10月から12月にかけて社会福祉センター外壁工事を行い外観がきれいになり建物のひび割れ部分からの雨漏りが大幅に軽減した。

令和5年4月から実施する放課後等デイサービスの部屋には、親しみやすいキャラクターのクロスの張替え工事を施工した。

（10）地域との関係づくりについて

12月15日に滑川ショッピングセンターで行われた高齢者交通事故・特殊詐欺被害根絶キャンペーンに参加し、新川会で作ったよもぎ入浴雑貨を配布して、高齢者の事故防止と特殊詐欺被害防止を呼びかけた。

障害福祉サービス事業所 工房よつば

(1) 利用状況

令和4年度中の利用者の増減はなかった。12名の利用者は当法人のグループホーム利用者が多く、ほぼ欠席することなく全員で活動を行った。

在宅者2名は20代であるが利用者の最高年齢が72歳であり、グループホーム利用者の平均年齢も47.9歳である。加齢を伴う身体機能の低下に合わせた作業内容の変化や、個々への配慮を考慮しながら就労支援を実施した。

(2) 運営状況

収入面では主力のテクニカ株式会社からの受注量が数年来減少してきているため、新たな事業として原木椎茸をはじめとする野菜生産を継続しながら新規の加工品作りを行ったり、さつき苑やつつじ苑との協働作業を行うことで、地域での農作業や除草活動を実施し収入に繋がった。原木は新たに200本購入し菌打ち作業を行い育成中である。

また、加工品の質の向上による収益アップにつながるよう、県の農福応援アドバイザー派遣事業を活用し加工品や畑作業のアドバイスをいただき加工品作りの向上に努めた。

< 参考 最近5年間の利用状況および平均工賃額 >

1日あたり平均利用者数

3月末日

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人数	12.1名	13.3名	11.9名	11.2名	11.8名

平均工賃

3月末日

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
金額	7,237円	5,710円	5,720円	6,330円	7,069円

(3) 利用者支援について

行事はコロナ禍の中での実施の為、外部との交流は少なかったが事業所内で行う夏と秋のお楽しみ会やコロナの感染状況の推移を見て遠足や社会生活体験の外出を伴う行事など年間計画の中で予定していたものは実施できた。

個々の活動として年齢や障害特性に合わせた作業の提供を行い就労支援を実施した。

令和4年度の主要行事

月	行 事	実 施 状 況
4	お花見	実施
5	外出&レクレーション	魚津ドン・キホーテ
6	遠足	黒部方面（K K くらべ他）
8	夏のお楽しみ会	実施
9	ふれあい育成スポーツ大会	中止
10	秋のお楽しみ会	実施
11	社会生活体験	県西部方面（高岡イオン他）
12	期末の集い	実施
1	新年を祝う会	実施
2	節分の会	実施
3	ひなまつりの会	実施

（４）生産活動

受託作業量の低迷が続き収入の増加が見込めない為、自主製品の農作物販売等で収入を維持するように取り組んだ。

作業種目

- ・テクニカ株式会社によるバリ取り作業
- ・林商会のアメニティセット製作とタオルたたみ
- ・よもぎ入浴雑貨と原木椎茸の生産、出荷
- ・野菜の生産、販売
- ・地域の農家への農作業
- ・除草活動

（５）新規利用者の獲得

地域相談室との情報共有や即売会などの参加を通し事業所を地域の皆様に知っていただける場を持つように努めたが、新規利用者の獲得には至らなかった。

（６）職員の質の向上

研修会に参加し自己研鑽の場を持ち、また、個別支援会議や事業所会議の場で研修の伝達を行い職員の意識の向上と情報の共有に努めた。